関東ふれあいの道を歩く（２）　神奈川（②油壷・入江のみち）

2019 年 4 月 2 日　池内淑皓

２０１９年３月２４日今回も岩礁地帯を歩くので、潮回りの良い日を選んで実行した。
首都圏自然歩道連絡協議会編の資料によれば、ゴールは油壷バス停（3.４ｋｍ、１時間）となっているが、山と渓谷社刊のガイドブックによれば、油壷から小網代湾を経て、白髭神社から直接京急三崎口に達する（11.１ｋｍ、３時間）コースとなっているので、このコースを歩くことにした。

関東ふれあいの道　神奈川　②油壷・入江のみち　概念図

首都圏自然歩道連絡協議会

今日も潮回りを気にして７時３０分到着。バスはすぐの接続で三崎漁港に向かう

　朝が早いので、三崎港行きの道は道路渋滞もなく、８時前に到着する
この地は、平安時代三浦爲道が所領した時から三浦と呼ばれた。室町時代の 1467 年（応仁年間）紀伊半島沿岸漁民達の集団移住によって、漁村集落を形成してゆく。
江戸時代に入ると、三浦は各地からの廻船の寄港地となり、栄えていった。

バス停前には関東ふれあいの道概念図と、行程図が掲げられている

バス停前から道標にしたがって、歌舞島公園に向かう

「朝の三崎漁港」

特定第三種とは、水産業の振興のため特に重要である漁港を指す。

本州と九州のみに存在し、１３港ある（八戸、気仙、石巻、銚子、三崎、焼津等）

三崎港では毎日曜日早朝、朝市が開かれている、新鮮な魚や、あら汁が飲食できる

「歌舞島公園」

この辺りは鎌倉時代行楽の地として多くの人に知られ、源頼朝もここで歌舞宴楽をしたと

云う。昔ここは兜に似た島であり、隆起によって陸続きになったと言う。歌舞島の由来

漁師町の路地を抜けると、諸磯に着く

「朝の諸磯湾の船溜まり」

波が穏やかな湾であるから左手は漁港、右手はヨットの係留地となっている

「油壷」　　あまりにも有名なヨットの係留地。
油壷の半島は三浦氏の居城であった「荒井城」である。落城に際して、油を流したように湾一帯が血で染まったという、油壷の名の起こりの一つ。

ヨット係留所の脇から、坂を上ると半島に向かうバス道に出る。

「験潮場」　験潮場へは、先ほどの道標先で海に下る。明治 27 年の建屋で、

日本水準点の役目を担う。

「基準水準点　No26」　　験潮場のすぐ上にある

この水準点は、全国に 83 個所設置されている一つで、昭和 5 年に置かれた。全国の高さの測量の基準となるもの。　ここは　標高 16ｍ6905

「荒井城祉」　現在の油壷マリンパーク一帯は、中世三浦一族の支配する要害であったが、1518 年（永正 15 年）北条早雲が大軍でこの城を攻略する。三年持ちこたえたが落城する。

「三浦義意の墓」　（三浦道寸の子）

「東京大学三浦臨海実験所」

旧本館は明治１９年の建築で、世界初の臨海実験室であった。戦争中は横須賀鎮守府所属の人間魚雷「回天」の特攻基地があった。戦後米軍に接取されたが生き残った。

耐震の問題が発生し、今年５月に解体されるらしい。すぐ近くには、東大地震研究所もある

東大臨海実験所前から浜に出ると荒井浜の海岸である。

「荒井浜の海岸」　シーズンともなれば、多くの海水浴客が押し寄せる

ここの岩礁地帯歩行も、今まで通ってきた道と変わらず楽しい

半島をぐるりと回りこみシーボニアの手前で磯伝いは行き止まりとなり、京急のホテル前に出る。

バスは京急油壷マリンパークまで運行している

マリンパークに遊びに行くと言う子供たちと一枚パチリ。

「小網代シーボニア」

　既述したように、首都圏自然歩道連絡協議会の資料では油壷がゴールであるが、山と渓谷社の資料に従って歩を進め、シーボニアの桟橋に向かう。

「白髭神社」小網代湾の一番奥まった所に鎮座。　三浦七福神の一つ

「小網代の森」　小網代湾の奥まった所から湿原と森が広がる

約 70ha の広さを持ち、1997 年散策路として整備された。浦の川の集水地として森林、湿地、干潟が広がり、関東地方では唯一の自然環境と言われている。

今日は大潮の最終日、大きく干潟が広がる

浦の川の源流まで湿地が広がる

小網代の湿原で一枚パチリ

三崎口駅からバスもあるが、歩いても大した距離ではない。道路には歩けるように案内ポールが立ている（三崎口駅から小網代の森入口まで 20 分程）

三崎口駅には１２時３０分到着した。14.5ｋｍ・2万歩程であった。

この項完

関東ふれあいの道（3）神奈川（③荒崎・入江のみち）に続く